

図書館へ行こう！

皆さんは読書の秋をどのように過ごしましたか？ 読書の季節は年中無休です。今年の終わりに手に取る一冊が、良い出会いとなりますように…。今日は、10月29日付の宮崎日日新聞「くろしお」の記事を紹介します。

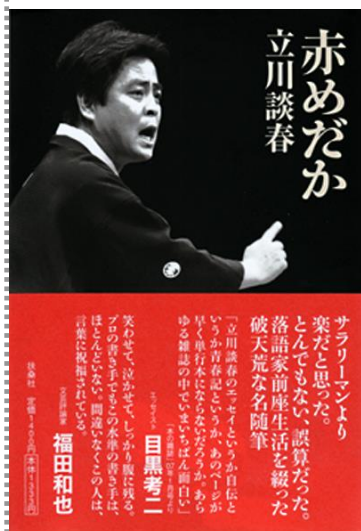
(2018.10.29 宮日「くろしお」貼付)

こうだろはん
※幸田露伴1867～1947 文語体作品で文壇地位を確立した小説家。代表作『五重塔』など。



先生方おすすめの1冊

国語科 阪口和也先生のおすすめ



立川談春著『赤めだか』

数年前、古典芸能をふりかえっていくという番組を立川談志さんが担当されていました。その番組の中で談志さんの知識の深さに感銘を受けました。

著者立川談春は立川談志の弟子で談志の生き様をこの本の中で描いています。落語

や歌舞伎、能・狂言など、日本の古典芸能、古典と聞くと、なかなか足をふみ入れるのに躊躇してしまいがちですが、本著は談志の弟子に対しての思い・世間に対して不器用に生きる様が人間臭く表現されています。談志の人となりがわかる作品(ちなみに嵐の二宮君主演でドラマ化もされました)で、伝統芸能の世界観・文化が垣間見できます。

宗教科 深川信一先生のおすすめ

吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』

昨年、話題になった本ですね。この本の主人公は中学男子生徒です。彼が日常の様々な出来事を通して悩み、考え、人に相談しながら歩いていきます。主人公を取り巻く人々(彼の叔父さん、学友など)にも注目かなと思います。

ところどころ、難しい内容もあります。それでもマンガのほうは皆さんも体験したことのあるシーンがあるかもしれません。マンガや小説など読む方法はいくつかあります。私はマンガの方を読んでみました。小説はまだ読んでいないですが…自分が読みやすい方を選んで手に取ってみてください。そして、最後、主人公が問いかけてくる「君たちはどう生きるか」を考えてみましょう。

